

令和7年度 園 評 価

大垣市立綾里こども園

<p><b>【園の教育目標】</b></p> <p>心豊かに元気いっぱい遊ぶ子</p> <p>やさしい子      がんばる子      考える子</p>	<p><b>【令和6年度の園評価より】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢交流は計画的に行っているが、地域や家庭への周知が十分ではないので、交流の内容や様子等を、掲示や通信などを通して、家庭や地域へ発信する。</li> <li>・防災士の方の研修を通して学んだことを活かし今までの訓練方法を見直し、あらゆる場所、想定での訓練を実施する</li> <li>・保育者の資質向上のため、各クラス公開保育を行い、互いの保育を見合い、指導力の向上に努める。</li> </ul>
---	--

4段階評価      ○保育者      ☆関係者      ●課題

観 点	短期目標	自己 評価	保護者 評価	評価及び意見の概要
保 育 ・ 幼 児 教 育 の 充 実	健康な 体つくり	3.4	3.8	○週案会で季節に合わせた曲や内容を選定し、体操や走りっこなど、毎朝継続して行うことができた。クラスや異年齢で、リズム遊びも継続して行い、体づくりをすることができた。 ○園外保育にもクラスごと、異年齢とペアになって等、積極的に出かけ、自然の中で、体を動かす心地よさを味わうことができた。 ☆園庭でのドッジボールを始め、保育室での遊びに関しても、保育者が子どもと一緒に元気に体を動かして意欲的に遊んでいる姿はとても良かった。 ☆どのクラスも元気いっぱい体を動かして楽しんでいただと思う。やったことのないこと、出来ないことにもチャレンジしてみようという、意欲が強いと感じた。 ☆夢中になると、周りを見る力が弱くなり、ぶつかったり、躓いたりすることも増えるので、様々な遊びの中で、体幹が培われていくとよいと思う。 ●チャレンジカードを作成し、体づくりや新しいことに挑戦する意欲を高めることができた。カードを利用して家庭との連携を図るためにも、使用する時期を検討していきたい。
	社会的 発達	3.3	3.9	○大きい子のクラスの様子を見たり、真似したりできる機会を日常生活の中で大切にしたい。異年齢でリレー、ドッジボール等を行う中で、ルールや方法を知り、体験を通して学ぶ良さを実感できた。 ○未満児同士（ひよこ組・うさぎ組）の交流（散歩や室内遊び）をたくさん行うことができた。後期は幼児との交流も少しずつ増やし、次年度への期待がもてるようにした。 ○小学校との交流はプール遊びやおもちゃまつりだけでなく、落ち葉拾いに参加したり、散歩に出かけた際、休み時間に声をかけてもらったりして、日常的な自然な交流も行うことができた。 ○良いこと見つけの時間を設け、良い姿を発表し掲示していくことで、ぼかぼか言葉の輪が広がった ☆同じクラスの友達だけでなく、異年齢クラスの友達の名前も話によく出てくる。異年齢交流の中で、様々な人と関わる楽しさを感じているように思う。
	精神的 発達	3.4	3.8	○子どもの興味・関心を探り、保育者自身も一緒に遊びを楽しむという姿勢を心がけた。消極的だった子ども、保育者の姿を見て、“やってみよう！”と遊び始める姿が見られ、保育者が一緒に遊びを盛り上げることの大切さを痛感した。 ○公開保育を通して自分の保育を見直すきっかけとなり、保育内容、環境構成、援助の仕方など、保育者の学びにつながった。また、職員間で話し合う中で、先輩保育者の良いところを吸収し、自身の保育に取り入れることができた。 ☆保育室での遊び、園庭での外遊び、どちらも子どもが、自分のやりたい遊びを見つけて、夢中になって楽しそうに遊んでいると感じた。夢中になって遊ぶ時の、子どもたちの集中力はすごいと感じた。
子 育 て 支 援 の 充 実	多 様 な ニ ズ に 応 じ た 支 援	3.4	3.9	○園での行事や異年齢交流の様子など、ドキュメンテーションを作成し、家庭へ発信することができた。保護者と子どもの様子や育ちを共有することができ、園生活に関心をもってもらえた。 ○登園時や降園時に、園であった出来事や家庭での出来事を共有し、子どもの成長を共に喜び合うことができた。 ○個人懇談及び希望懇談だけでなく、保護者から相談があった時は、できるだけその日のうちに対応し、必要であれば懇談の場を設けるなどして、保護者に寄り添うことができた。 ☆保護者に向けて、園の行事や遊びの様子などを、写真の入った分かりやすいおたよりにして、その都度配信する所が素晴らしいと思う。 ☆園での子どもたちの生き生きとした姿、保育者に安心しきっている姿、そして保育者が子どもたちに一生懸命関わっている姿を見て、現在の園の指導方針に間違いないと確信します。
支 保 育 ・ え 育 幼 児 る 育 幼 児 基 盤 盤 教 育 盤 盤 教 育 強 強 化 化 化	危 機 意 識 を も ち 、 緊 急 時 に 適 切 か つ 迅 速 に 対 応 で き る よ う に す る。	3.8	3.7	○訓練では毎回危機感をもちながら、担任間で声を掛け合い、安全に対応することができた。また、その都度反省をし、次の訓練に活かすよう努めた。 ○けがの記録を終礼時に報告し、参加できない職員は終礼ノートを確認することで、全職員が危険な場所、どんな怪我が起こったのか共通理解し、事故の再発防止につなげることができた。 ○地震の訓練では、場所に応じて安全な所（保育室は物が落ちてこない安全地帯、園庭では建物や遊具から離れた場所）に素早く集まり、ダンゴ虫ポーズをとることができた。 ☆地震の際、声掛け一つですぐに行動に移すことができたので、園での訓練の成果だと感じた。 ☆たんばば班の防犯指導の中で、セーフティファイブの歌を覚えてもらい、家で口ずさんでいたので、しっかり記憶に残っていると感じた。意識の中に刷り込まれていると、有事の際、迷うことなく行動に移せると思うので、今後も続けてほしいと思う。 ●子どもは予測できない行動をとることもあるので、様々な想定（園児が一人行方不明、職員が転んで動けない状況など）で対処の方法を考え、訓練をしていく必要がある。

**【次年度に向けて】**

- ・異年齢交流の計画を週案に組み入れ、散歩や遊びなどを通して、子ども同士の関わりを深めていく。
- ・保育者の資質向上のため、各クラス公開保育を行い、互いの保育を見合い、指導力の向上に努める。
- ・様々な想定での訓練を実施し、反省をもとに、次の訓練に活かす。
- ・保護者に保育内容を知ってもらうために、ドキュメンテーションやクラスだよりを作成し、遊びの過程や意図を伝える。また、家庭と連携を図れるよう、チャレンジカードを使用する時期を検討する。